

<村上駅周辺まちづくりプランの構成（案）と本資料の位置づけ>

○はじめに

村上駅周辺まちづくりプランとは

1. 村上駅周辺の現況

人口・世帯数・高齢化、未利用地、道路・公園状況など

2. 住民等の意向把握

アンケート結果・座談会結果

3. 村上駅周辺の課題整理

現状や住民意向などをもとに駅周辺地区の課題を整理

4. 駅周辺まちづくり基本方針の設定

現状、住民意向、課題などをもとに、駅周辺地区の将来像や基本方針を策定

5. 基本方針実現のための事業内容の検討

基本方針を実現させるための事業を検討

6. 概算事業費の算定

各事業の概算事業費を算定

7. 事業スケジュールの設定

計画期間における事業スケジュールを設定

8. 評価指標の設定

選定した事業について、その達成度を評価するための客観的指標を設定

今回議論をしていただく部分

1. 村上駅周辺地区の現況（10の切り口からみた現況・キーワード）

切り口	現況	市民からの主な意見等（○アンケート、●座談会）	キーワード
1. 人口・世帯	<ul style="list-style-type: none"> ○人口は駅半径 500m 以内で増加、その他は減少。増加傾向は、飯野西、山居町 1、緑町 4, 5 など。 ○世帯数は駅西側で増加、東側で減少。駅前と駅西を合わせると、駅から 500m 以内では増加傾向。 ○高齢率 40%超が田端町、松山、35%超が飯野桜ヶ丘。20%未満は飯野西、緑町 5、松原町 1～3 など。 	<ul style="list-style-type: none"> ●住宅地整備以上に激しい人口減、著しい高齢化、アパートの一人暮らしが多い。 ●1 kmを越える移動は、もっぱら車で利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少 ○世帯人員の減少(一人暮らし世帯の増加) ○高齢化への対応
2. 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ○旧ジャスコ跡地(現病院向け駐車場)のほか、まとまった未利用地が複数散在。 ○現村上総合病院が移転した場合、未利用地となる。 ○既存の商店街や住宅地等で空き家が存在。 ○駅周辺地区の地価は商業地、住宅地ともに低下傾向。 ○都市計画の用途地域や準防火地域、景観計画区域などに指定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○病院移転後の跡地利用は「社会福祉施設」、「商業施設」、「文化・交流施設」、「公園・広場」など [Q11]。 ○旧ジャスコ跡地の利用は、「多目的広場」、「駐車場のまま」 [Q12] ●病院の跡地利用は複合・多目的な施設立地が良い。 ●旧ジャスコ跡地は、イベントができる広場として利用が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○病院移転による大規模跡地 ○空き地、空き家、未利用地 ○景観への配慮
3. 都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> ○駅東側は幹線道路の配置が充実し、歩道も概ね整備。一方、駅西地区の幹線道路は国道 345 号のみで道路網が形成されていない。 ○鉄道横断箇所は、駅から離れた場所に 3 か所。平面横断(踏切)もある。 ○公園・広場が未整備。 ○一般車可以利用できる駐車場は、旧ジャスコ跡地(約 400 台収容)のみ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地区内の「駐車場容量」や「公園」、「雰囲気」に不満が多い [Q09] ●駅前側は道路が広く、高速 I からのアクセスもよい。 ●岩船街道踏切から駅西側へのアクセス道路の整備が必要。 ●駅～町屋地区、駅～瀬波温泉への歩行者ネットワーク整備を。 	<ul style="list-style-type: none"> ○駅西側の道路網整備 ○歩行・自転車走行の環境整備 ○鉄道横断箇所の不足 ○公園・広場等の不足 ○駐車場の整備
4. 都市機能・サービス	<ul style="list-style-type: none"> ○医療 [村上総合病院]、就学 [村上高校、桜ヶ丘高校]、交流 [中央図書館、生涯学習推進センター] などの機能が存在。居住機能は戸建て住宅中心 ○駅前～肴町間の都計道田端 5 号線沿線の「駅前通り商店街」を中心に、店舗や飲食店が立地。連続性に欠け、駐車スペースが殆ど無い。駅西側に駅西ショッピングセンター(原信等)のほか、国道 345 号沿線に小規模な店舗等が点在。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地区でよく利用する施設は、「駅西 SC」、「病院」、「郵便局」など [Q7]。 ○地区が将来担うべき機能は「買物・飲食」、「交通拠点」、「公園」 [Q10] ●魅力的な商業施設が少ない、地区来訪者が集う場がない。 ●駅前通り商店街加盟店は往時の半分程度に減少。商店街利用者は地区外からの馴染み客も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地区内に多様な市民が存在(高校生、通院者、その他公共施設利用者など) ○駅前通り商店街の活力低下 ○東西で都市機能が線引き
5. 駅・駅前空間の機能	<ul style="list-style-type: none"> ○駅前広場は、東西約 40m・南北約 90m の空間内に一般車乗降場、駐輪場、バス・タクシーの乗降場、瀬波温泉等の送迎バスなどが集中。各動線が重なり、歩行者・自転車の専用空間が確保されていない。一般車の利用スペースは 5 台程度。 ○観光案内所や駅舎内コンビニ、レンタカー、交番などの施設。 ○駅西側への連絡や改札口は無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「駅東西の行き来」、「駐車場容量」、「送迎の場」に不満多い。 [Q8] ○駅西口の必要性は高い。特に「駐車場」、「トイレ」、「自動車の乗降スペース」、「路線バス乗降場」等を望む意見が多い。 [Q15, 16] ●駅周辺地区が村上の玄関口・顔になっていない。 ●駅東側は、駐車スペース、ロータリー、美しい景観の整備。 ●駅西側は、西口を整備し、駐車場・送迎駅東の不足を補う施設整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ○駅前での多様な交通動線の錯綜 ○歩行者・自転車の安全確保 ○駅の東西間での連絡が無い ○駅前空間の魅力
6. 公共交通(鉄道・バス)	<ul style="list-style-type: none"> ○乗合バスは、駅前を起点に乗合バス 5 路線と巡回バス 2 路線が走行。駅西側からの駅へのアクセスは無し。 ○鉄道は 1 日平均約 1,800 人が乗車(三条駅、柏崎駅と同等規模)。 ○村上総合病院行の乗合タクシーが近隣(神林、朝日、山辺里・瀬波)から運行。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地区への交通手段は、主に一般市民・周辺居住者が「自動車(自分で運転)」、高校生が「鉄道」 [Q06] ●朝夕は駅前に送迎のためのマイカーが集中。 ●鉄道便数が少なく、路線バスとの接続が合わないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通の利便性 ○駅西地区の乗合バス利用環境 ○公共交通利用者、送迎者の活用
7. にぎわい・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ○村上駅周辺のイベントは「万燈神輿祭渡御～ばらはちかん～」、「軽自動車 de ふれあい直売所」、「村上駅前イルミネーション」など。 ○地区まちづくり協議会、町内会、商店街等の地元住民による組織が存在。 ○肴町付近の「町屋の人形さまめぐり」、「村上大祭」、「町屋の屏風まつり」などは駅から徒歩圏内にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○にぎわいある地区にする手段として、「定期的な商店街のイベント開催」、「空き家空き地の積極的活用」、「観光イベント開催」など。 [Q13] ●駅周辺地区のにぎわいづくりメニューとして、フリーマーケット・定期市・商店街イベントなど。 	<ul style="list-style-type: none"> ○イベントによるにぎわい創出 ○イベントを開催する場 ○町屋・町人町地区との連携 ○商店街、地域コミュニティ
8. 安全(防災対応)	<ul style="list-style-type: none"> ○駅から 500m 以内の指定避難所は村上高校及びグラウンドのみ。 ○一次避難所となる公園・広場が殆どない。 ○駅西側の指定避難所は、駅から 1000m 近く離れた村上中等教育学校が最も近く、緊急輸送道路も国道 345 号のみ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害に適應する暮らしやすいまちづくりが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○住民や来訪者が利用できる防災拠点 ○駅西での防災拠点、緊急輸送道路
9. 他の拠点との関係	<ul style="list-style-type: none"> ○村上市街地には、①旧城下町[旧町人町・旧武家町](行政、観光、飲食)、②国道 7 号沿道(商業・飲食)や、③瀬波温泉(観光・宿泊)、④岩船港(観光)などの拠点があり、駅周辺地区(村上駅)はこれら拠点を結ぶ拠点となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●城下町の風情が無く、町屋エリアとの連続性が全くない。 ●西口改札が無く瀬波温泉へのアクセスが悪い。 ●駅西口をつくり瀬波温泉までのウォーキングルートが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○周辺他地区との機能分担・アクセス性(歩行、公共交通、道路) ○駅西口の必要性
10. 近年の動向	<ul style="list-style-type: none"> ○平成 22 年度に村上駅バリアフリー化設備の整備[車いす対応エレベーター、ホーム間連絡跨線橋等] ○平成 25 年 3 月に生涯学習推進センターが開設、平成 26 年 3 月に観光案内所「村上旅なび館」が開設予定。 ○駅西で土地区画整理事業[平成 19～21 年度]、合わせて村上駅西ショッピングセンター開設[平成 21 年 6 月]。 ○平成 25 年 5 月に村上総合病院の新築候補地が駅西に決定。 		<ul style="list-style-type: none"> ○病院移転に伴う大規模跡地 ○住宅地整備、定住人口確保 ○駅西地区の整備に伴う駅西口の必要性

2. 村上駅周辺地区の可能性

(1) 村上駅周辺地区の活性化に関する“強み・弱み”

	村上駅周辺地区内の状況	村上駅周辺地区を取り巻く状況
プラス要素	<ul style="list-style-type: none"> ○人が日常的に集まる施設（学校、病院、オフィス、図書館等）が存在。様々な人が訪れている。 ○鉄道とバスの交通結節点として他地区を利用する人もいる。 ○駅から徒歩圏内（500m内）に約1,700人が居住。 ○旧ジャスコ跡地の駐車場は400台収容可能。 ○主な道路は歩道が整備されている。駅及び施設間の歩行・自転車移動の空間は確保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鉄道やバスなど公共交通による移動環境が整備されている。 ○JR 村上駅は特急が停車するなど、鉄道利用による観光来訪者の玄関口。駅前の観光案内所は新設移転予定。 ○高速道路〔日本海東北自動車道〕のインターチェンジから駅前への自動車による移動環境が整備された。
マイナス要素	<ul style="list-style-type: none"> ●鉄道を挟んで東西が分断されている。車及び歩行等で、相互の行き来ができない。都市機能は、東西で連携していない。 ●旧ジャスコ跡地をはじめとした、低未利用地や空き家が存在。それらの利用計画が定まっていない。 ●村上駅前は、バスやタクシー、送迎車（市民・観光）等の利用する空間が十分確保されていない。 ●駅前空間や駅周辺地区内の道路は、冬期降雪時の除雪サービスが十分ではない。 ●地区居住者の高齢化が進行。 	<ul style="list-style-type: none"> ●依然として車社会が浸透し、公共交通による移動は限られた人（高校生や高齢者）のみ。 ●高速道路インターチェンジから駅西側へ自動車による移動に制約がある。 ●村上総合病院が、駅西側に移転予定。今のままでは、駅東側からの移動に大きな制約が生じる。 ●村上市街地の他拠点と都市機能やサービスが重複している。

(2) 村上駅周辺地区内で活動する人と特性

No.	活動する人	行動や特徴
①	住民	○年中、地区内に居住／○少子高齢化が進み、東西問わず一人暮らしが多い／○コミュニティ希薄／○空き家を無くしたい／○徒歩圏内で用事をすませたい（15分で動ける範囲）／○朝、散歩する人多い／○旧ジャスコ跡地等を便利にしてほしい／○新しいもの、おしゃれなものが好き／○自由通路は、あれば便利程度／○買物は駅西（原信）、マックスバリュ
②	商店街	○商品の仕入・販売・サービスをする／○売上・後継者を確保したい／○空き店舗・空き地を無くしたい／○駐車場が少ない／○田端町外の人に来て商売しているお店が多い／○近くに居住し、借家で商売／○村上総合病院の移転は困る／○大型店にない魅力がある？／○固定客が多く、意外と広範囲／○サービス業多い（飲食・酒・八百屋・美容・美容）／○他業種への配達が多く、個人客相手は少ない／○店舗数（37件）20年で半分以下
③	買い物客	○徒歩・自転車で買い物をする／○お金を持っている／○特定少数のリピーターが多く、店主と仲が良い／○荷物を持って歩かない／○国道7号沿いに無い特徴的なお店を好む／○ジャスコのシャトルバスに、結構乗る／○1kmを越える移動は車利用／○買い物で立ち寄る先に駐車スペースが無く不便／○駅東買物者は少なく、駅西側の人は駅西原信を利用
④	学生（高校生等）	○通学する（鉄道・徒歩・自転車・送迎）／○高校生が多く、放課後は図書館・塾、コンビニを利用する／○市に愛着がない？／○勉強熱心／○鉄道等の待ち時間の居場所がない／○行儀が悪い（外で飲食・たむろする）／○活性化に役立つかは未知数
⑤	勤労者（勤め人）	○職場に通う／○サービスを提供する／○車移動が主／○休日は地区内にいない／○病院の職員、病院関連業種が多い／○事業所減少により労働者も減少／○宿泊する／○飲み屋利用減少／○お客さんをどこに連れていこうか思い浮かばない
⑥	通院者	○病院に通院する／○薬局にも用事がある／○運転が困難な高齢者が増えてくる／○お見舞い用の買物する／○車で来る高齢者が多い／○商店街で食事する／○前ほど混んでいないため、通いやすい
⑦	観光来訪者	○よそ者／○瀬波温泉や町屋観光を行う／○地域の情報を知りたい／○お土産を買いたい・思い出を残したい／○電車の待ち時間を有効利用したい／○一番この地域に魅力的な印象を持っている／○人との出会い・ふれあいがうれしい／○団体より個人客が増加／○休憩場所、飲食する場所がない／○お金を使う／○定期的に来るリピーターが多い／○泊まる人→安く泊まって、うまいものを食べたい（泊食分離）／○駅～町屋まで歩く人がいる（迷路のような小路が好き）／○温泉客は移動に困っていない／○目的が多様化（大祭・六斎市・海水浴・電車撮影・スポーツ・釣りなど）／○短時間で案内できない
⑧	公共交通利用者	○地区内に用事はない／○車を自由に使えない／○地区内に関心がない／○知らないお店に入りにくい／○待ち時間の居場所がない
⑨	交通事業者	◇鉄道事業者／◇バス事業者／◇タクシー会社
⑩	企業・事業者	◇病院（厚生連村上総合病院、肴町病院）／◇その他事業者
⑪	団体・組織	◇JA／◇村上市観光協会／◇地区協議会・自治会／◇まちづくり団体
⑫	行政	◇ハローワーク村上／◇県振興局・警察／◇村上市

3. 村上駅周辺地区のまちづくりの課題、まちづくりの視点

まちづくりの6つの課題（案）	
ア. 駅前の賑わいや玄関口としての魅力に乏しい	①商業機能の衰退、連続性の喪失（商店街としての魅力低下） ②玄関口としての機能の不足（景観的な魅力・統一感、滞留・休憩、観光情報等の発信など） ③市街地全体での駅前地区の役割が乏しい（他地区との関係性・役割分担を明確化する必要あり） ④大規模施設跡地（村上総合病院・旧ジャスコ跡地等）の利用 ※『大規模跡地利用が駅前まちづくりの重要なカギとなる』との認識も多い。 ⑤地区内に低未利用地（空き地・空家等）が点在。高度利用が図られていない。 ⑥にぎわいを創出する取り組みの充実（イベント、まつり等、定期的な）
イ. 駅前空間及び公共交通の利便性の低さ	①村上駅の利用環境（交通結節機能が未熟） →駅前広場スペースが狭いこと等による様々な不便・危険（各動線の重なり、バスやタクシー等の駐停車空間、冬期の除雪環境など） ※「今のままで良い」「画一的な駅前は望まない」との意見もある。 →歩行者・自転車の移動やバス待ち空間の安全性・快適性、送迎車や駐車スペース不足 ②地区内のバス交通網やバス利用環境 →駅西地区のバス交通ネットワークが疎（道路網の不足）、駅東側への迂回移動 →バスベイ（バス専用の停車スペース）の不足、上屋（雨露から防ぐために設けた、柱に屋根をかけただけの建物）の未設置等によるバス待ち客の快適性の低さ
ウ. 駅東西の分断感	①駅東西の連絡性 →鉄道横断箇所不足、横断部（踏切）付近の幅員狭小などによる円滑・安全上の問題 ②駅西側から駅（鉄道）を利用できない →将来の病院移転により、東西分断感（東西移動円滑化のニーズ）が更に増す可能性大
エ. 地区内移動時の制約	①鉄道交差部等における歩行者・自転車空間の安全性・快適性が低い ②歩行空間のバリアフリー環境（駅西から交通弱者[高齢者・車いす利用者]の駅前移動は困難） ③駅西地区内における移動の利便性（未熟な道路網、都計道の未整備） ④交通誘導の不足等（自動車交通の案内標識、歩行者自転車交通のサインネットワーク）
オ. 周辺地区等とのアクセス性	①駅周辺地区と周辺拠点等とのアクセス環境（移動手段・利便性の充実）をより高めること →駅から市役所周辺や主要観光地、岩船港等とのアクセス環境 →瀬波温泉や岩船港など駅西側にある拠点への移動方法[駅西口の必要性] ②骨格交通体系から駅西地区へのアクセス性（高速ICや国道7号から駅西地区への移動環境）
カ. 居住環境の魅力不足	①低未利用地（空家・空き地等）の活用、有効利用 ②住環境の魅力や質を高める機能、空間・施設の充実 →公園広場等の身近な遊び場、生活道路の安全安心、買い物・飲食の場など ③住宅地内の通過交通対策（生活道路への通過交通流入等による安全性） ④防災・減災への対応（避難路・避難場所の必要性、踏切や狭幅員による緊急車両通行の制約） ⑤冬期の除雪サービスの充実（駅前空間、駅周辺地区内の道路等）

【上位計画の位置づけ（都市計画マスタープラン）】
 ～環境にやさしく暮らしやすい『コンパクトなまちづくり』～
 <まちづくりの5つの重点目標>
 1：若者定住 2：高齢安心
 3：交流拡大 4：住み心地
 5：市民協働
 <村上市街地の目指す姿>
 “人どうしのコミュニケーションがあり、歩いて暮らせる便利な市街地”
 ◇都市拠点の充実
 - 居住機能の充実
 - 都市サービス機能の充実
 - 地域資源の活用と交流人口の拡大

<駅周辺地区のまちづくりの視点（例）>
 “駅周辺まちづくりを進めるために必要な視点は何か？”

(1) 持続的な発展・活性化に資する都市機能の配置と誘導
 →村上市の拠点としての都市機能強化
 →民間活力を誘導・支援する環境づくり
 →安全・円滑に移動できる道路交通体系づくり

(2) らしさ・魅力の創出
 →市の玄関口としての雰囲気づくり
 →地区全体としての個性と一体感の創出
 →訴求力の向上（行ってみたい・住んでみたい）

(3) 市民等の主体的活動と行政の先導的支援
 →多様な市民等の参加・協働による活性化
 →市民活動や環境づくりに対する行政支援

4. 村上駅周辺のまちづくりの基本方針及び施策（案）

まちづくりの課題	基本方針（案）		具体的な施策（案）
		取り組みの視点・方向性	
<p>まちづくりの課題</p> <p>ア. 駅前の賑わいや玄関口としての魅力に乏しい</p> <p>イ. 駅前空間及び公共交通の利便性</p> <p>ウ. 駅東西の分断感</p> <p>エ. 地区内移動時の制約</p> <p>オ. 周辺地区とのアクセス環境</p> <p>カ. 居住環境の魅力向上</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>まちづくりの視点</p> <p>(1) 持続的な発展・活性化に資する都市機能の配置と誘導</p> <p>(2) らしさ・魅力の創出</p> <p>(3) 市民等による主体的活動と行政の先導的支援</p>	1. 駅東口の機能向上	<ul style="list-style-type: none"> ①村上駅の交通結節点としての機能強化 ②『都市の玄関口（市の顔）』としての機能強化 	<ul style="list-style-type: none"> a. 駅東口広場空間の再整備 b. 鉄道利用者向け駐車場整備 c. 駅前通りの街並み整備
	2. 駅東西の連絡性強化及び移動円滑化	<ul style="list-style-type: none"> ①駅東西及び鉄道駅との一体感形成 ②駅東西での連絡性強化 ③徒歩及び自転車による移動環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> a. 駅西口の整備及び駅東西を連絡する通路の整備 b. 鉄道横断箇所の安全対策 c. 歩行空間のバリアフリー整備
	3. 公共交通の利便向上・利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ①駅の利便性向上（乗り継ぎ環境、待合空間など） ②駅西側からの鉄道利用（駅西側の駅前広場空間） ③バス交通網・利用環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> a. 駅東口での公共交通の利便性向上 b. 駅舎の魅力向上 c. 乗合バスの利便性向上
	4. にぎわいの場・環境づくり（交流人口の増加）	<ul style="list-style-type: none"> ①市民が定常的に訪れる場、多目的な利用ができる空間 ②観光イベントのための空間、イベントの連携[サテライト的な機能] ③人が集まり交流するイベント・しかけづくり ④商業地としての機能再生（魅力的な商店・飲食店） ⑤回遊して楽しめる空間づくり（拠点観光のスタート地点） ⑥空家・空店舗の利活用 	<ul style="list-style-type: none"> a. 大規模跡地等の利用推進（地区の核となる都市機能増進施設[※]の整備） b. 各種にぎわい創出イベントの実施 c. 情報発信拠点の整備 d. 商業活性化に向けた取組 e. 案内誘導（歩行者自転車のサインネットワーク等）の充実
	5. 居住のための環境づくり（定住人口の増加）	<ul style="list-style-type: none"> ①生活環境の質向上（駅周辺地区内の道路、公園、道路附属施設等） ②安全・安心の環境整備（交通安全、バリアフリー対策、都市防災） ③空家・空き地等の活用 ④多様なニーズに応じた居住の場（受け皿）づくりに向けた環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> a. 地区内道路の整備 b. 公園・広場空間の整備 c. 自転車・歩行者空間の整備（及びバリアフリー整備） d. 居住誘導支援（空き地・空家の活用促進等）
	6. 駅周辺地区等とのアクセス環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ①高速インターチェンジや国道7号から駅西側へのアクセス改善 ②拠点間アクセスの利便性向上（駅と周辺拠点間、徒歩・自転車・乗合バス等） 	<ul style="list-style-type: none"> a. 高速インターチェンジ等から駅西側へアクセスする幹線道路の整備 b. 案内誘導（道路標識等）の充実 c. 自転車・歩行者空間の整備 d. 駅西口の整備及び乗合バスの利便性向上

※都市機能増進施設：都市の居住者等の共同の福祉又は利便のため必要な施設、都市機能の増進に著しく寄与するもの。

村上駅周辺地区の将来整備方針図(案)

凡 例	
●	店舗
●	飲食店
●	宿泊施設
●	行政施設
●	文化・教育施設
●	医療・福祉施設
●	交通施設
●	金融・郵便施設
●	その他施設
■	大規模公共施設用地
○	バス停留所
---	バス路線網
---	用途地域界
---	町丁界・町丁名

※建築物表示は建築面積500㎡以上の建築物



- 【基本方針(案)】**
1. 駅東口の機能向上
 2. 駅東西の連絡性強化及び移動円滑化
 3. 公共交通の利便向上・利用促進
 4. にぎわいの場・環境づくり(交流人口の増加)
 5. 居住のための環境づくり(定住人口の増加)
 6. 駅周辺地区等とのアクセス環境づくり

- 2-2 駅東西での連絡性強化
2-3 徒歩及び自転車による移動環境づくり
- 6-1 高速インターチェンジや国道7号から駅西側へのアクセス改善

- 5-1 生活環境の質向上(地区内道路、公園、道路付属施設等)
5-2 安全・安心の環境整備(交通安全・バリアフリー対策、防災)
5-3 空家・空き地等の活用
5-4 多様なニーズに応じた居住の場(受け皿)づくりに向けた環境整備

- 4-2 観光イベントのための空間、イベントの連携

- 2-3 徒歩及び自転車による移動環境づくり

- 3-3 バス交通網・利用環境の充実

- 2-1 駅東西及び鉄道駅との一体感形成
2-3 徒歩及び自転車による移動環境づくり
3-2 駅西側からの鉄道利用(駅西側の駅前広場空間)

- 1-1 村上駅の交通結節点としての機能強化
1-2 『都市の玄関口(市の顔)』としての機能強化
3-1 駅の利便性向上(乗り継ぎ環境、待合空間など)
4-5 回遊して楽しめる空間づくり(拠点観光のスタート地点)

- 4-4 商業地としての機能再生(魅力的な商店・飲食店)
4-5 回遊して楽しめる空間づくり
4-6 空家・空店舗の利活用

- 4-1 市民が定期的に訪れる場、多目的な利用ができる空間
4-3 人が集まり交流するイベント・しかけづくり

- 3-3 バス交通網・利用環境の充実

- 2-3 徒歩及び自転車による移動環境づくり

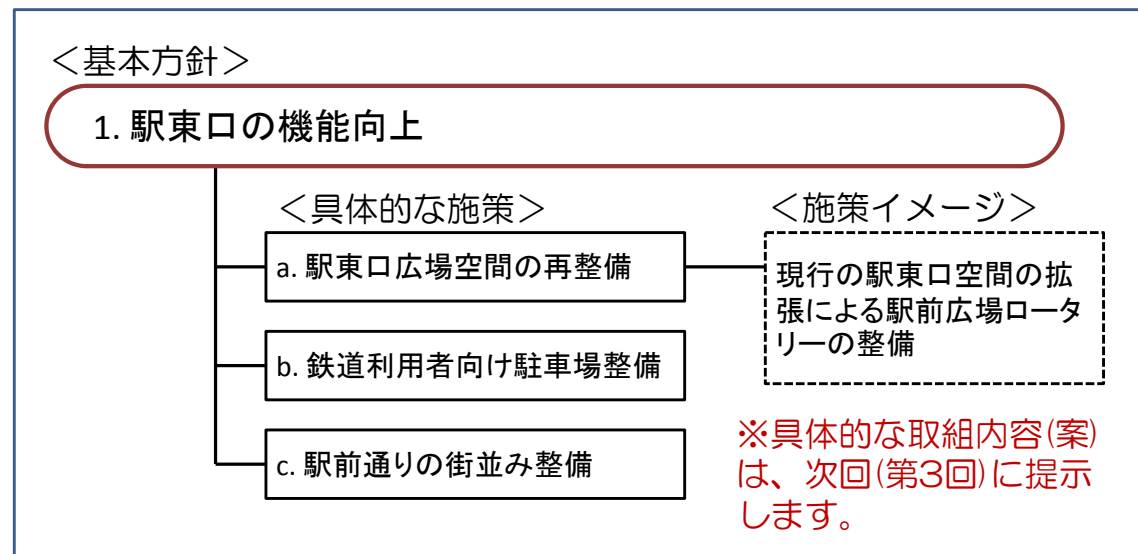
大規模施設跡地

鉄道利用による来訪者(新潟・新発田・首都圏等)

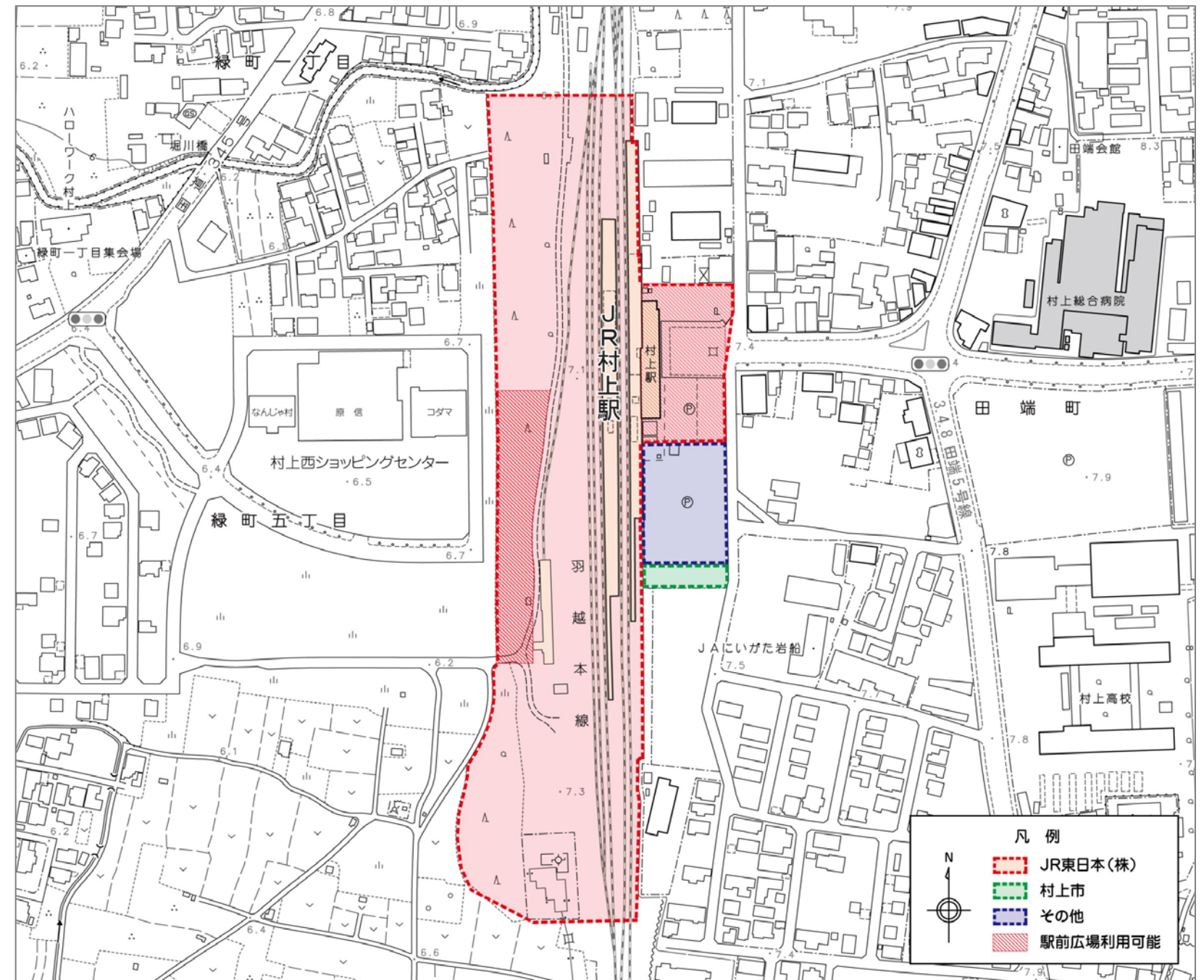
※岩船街道踏切付近

高速道路インターチェンジ [村上瀧波温泉IC]

<参考1：基本方針－施策－具体的な取組の関係>



<参考2：JR東日本の用地範囲について>



5. 施策（案）の具体的なイメージ

基本方針（案）	施策（案）		想定される取組
	名称	具体的なイメージ（【 】内は重複する他の施策番号）	
1. 駅東口の機能向上	a. 駅前広場の整備	○現行の駅東口空間の拡張による駅前広場ロータリーの整備	※検討中
	b. 鉄道利用者向け駐車場整備	○パークアンドライドによる鉄道利用を想定した駐車場整備	※検討中
	c. 駅前通りの街並み整備	○市の顔としての一般県道村上停車場線[駅前～村上駅前交差点間]の街並み整備	※検討中
2. 駅東西の連絡性強化及び移動円滑化	a. 駅西口の整備及び駅東西を連絡する通路の整備	○駅西口（交通広場）の新設及び駅東西を連絡する歩行者・自転車通路の整備※【6-d】 ※自由通路整備に伴う駅橋上化を想定。	※検討中
	b. 鉄道横断箇所の安全対策	○岩船街道踏切及び瀬波温泉跨線橋の交通安全及び移動円滑化対策【5-c】	※検討中
	c. 歩行空間のバリアフリー整備	○地区内での歩行者空間のバリアフリー化	※検討中
3. 公共交通の利便向上・利用促進	a. 駅東口での公共交通の利便性向上	○現行の駅東口空間でのバリアフリー化、耐候性対策（雨・雪等）	※検討中
	b. 駅舎の魅力向上	○駅舎のバリアフリー対策、待合空間、情報発信機能等の充実	※検討中
	c. 乗合バスの利便性向上	○バス停留所でのバス待ちスペース確保、耐候性対策（雨・雪等） ○駅西口整備や駅西側地区内道路整備に伴う乗合バス路線の見直し【6-d】	※検討中
4. にぎわいの場・環境づくり	a. 大規模跡地等の利用推進（地区の核となる都市機能増進施設※の整備）	○厚生連村上病院移転跡地での都市機能増進施設整備 <<要検討>> ○旧ジャスコ跡地での公園・広場空間整備【5-b】	※検討中
	b. 各種にぎわい創出イベントの実施	○地区内での各種イベントの実施（※社会実験的な試行実施による可能性評価）	※検討中
	c. 情報発信拠点の整備	○地区内及び周辺施設の利用や移動に関する情報発信の環境整備（既存施設内での対応）	※検討中
	d. 商業活性化に向けた取組	○駅前通り商店街の魅力向上のためのソフト的取組（地域主体の取組） ○一般県道村上停車場線沿線等での空き店舗の活用等（チャレンジショップなど）	※検討中
	e. 案内誘導の充実	○歩行者自転車のサインネットワーク整備（案内看板、サイン、通り名づくりなど）	※検討中
5. 居住のための環境づくり	a. 地区内道路の整備	○駅西地区における地区幹線道路の整備 [①駅西口へ直結するアクセス道路、③南北方向の連絡道路（都計道環状3号線）] ○地区内幹線道路の拡幅整備[緊急輸送道路の幅員確保（一般県道岩船港線等）]	※検討中
	b. 公園・広場空間の整備	○居住者のための身近な公園（街区公園等）の整備 ○地区住民及び来訪者のための公園・広場の整備（防災機能を備えた公園整備）【4-a】	※検討中
	c. 自転車・歩行者空間の整備（及びバリアフリー整備）	○駅西地区内の自転車・歩行者空間整備（駅西口～学校町間）【6-c】 ○岩船街道踏切及び瀬波温泉跨線橋の交通安全及び移動円滑化対策【2-b・6-c】	※検討中
	d. 居住誘導支援（空き地・空家の活用促進等）	○活用・流通の促進対策（空家バンク事業等の活用）及び管理不全対策 ○良質な土地利用を促すための取組（活用やあり方等の検討、官民一体となった体制づくり）	※検討中
6. 駅周辺地区等とのアクセス環境づくり	a. 高速インターチェンジ等から駅西側へアクセスする幹線道路の整備	○駅西地区における地区幹線道路の整備 [①日東道瀬波温泉 IC 及び国道7号から駅西口へアクセスする道路（羽越本線立体横断道路）]	※検討中
	b. 案内誘導（道路標識等）の充実	○道路案内標識の誘導計画見直し（日東度 IC 等への効率的な案内、ネットワーク機能確保等）	※検討中
	c. 自転車・歩行者空間の整備	○駅西地区内の自転車・歩行者空間整備（駅西口～学校町間）【5-c】 ○岩船街道踏切及び瀬波温泉跨線橋の交通安全及び移動円滑化対策【2-b・5-c】	※検討中
	d. 駅西口の整備及び乗合バスの利便性向上	○駅西口（交通広場）の新設及び駅東西を連絡する歩行者・自転車通路の整備※【2-a】 ○駅西口整備や駅西側地区内道路整備に伴う乗合バス路線の見直し【3-c】	※検討中

参考：大規模跡地等の利用推進の考え方（村上駅周辺地区の核となる都市機能増進施設の整備）

【条件】敷地面積 15,460.57㎡、用途地域：第1種住居地域・商業地域

【考え方】

◆市民の意向【市民アンケートによる意向】

村上総合病院移転後の跡地利用（設問：Q11）

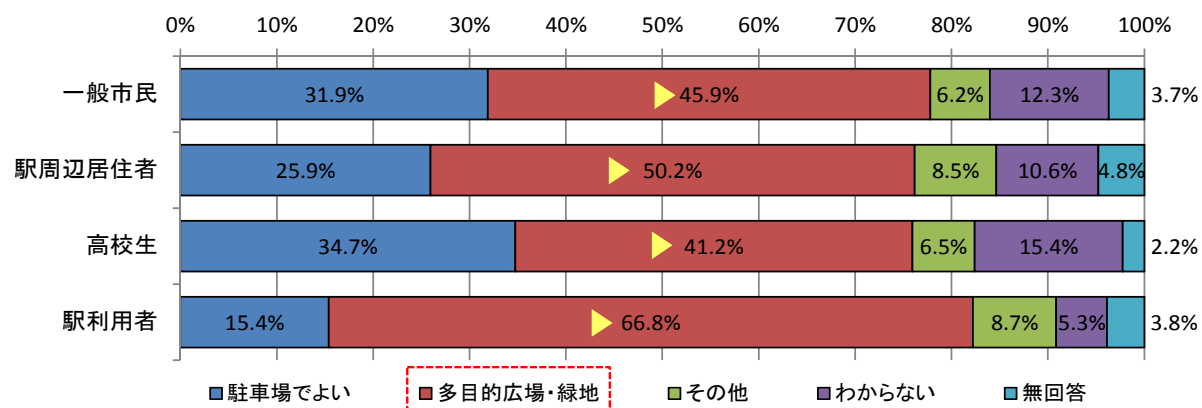
一般市民と駅周辺住民からは、「社会福祉施設」、「商業施設」が望ましいという回答が多く、高校生と駅利用者からは、「商業施設」、「公園・広場」が多い。

利用方法	一般市民	駅周辺居住者	高校生等	駅利用者
社会福祉施設	469	179	89	41
文化・交流施設	329	138	92	44
観光交流施設	264	133	38	33
防災拠点施設	127	84	26	55
商業施設	379	176	116	58
住宅地	42	12	8	11
公園・広場	268	133	107	61
駐車場	171	49	29	21
その他	55	49	8	5
わからない	101	28	79	8

（あてはまるものを2つ選択。それぞれ上位3位の施設に着色 ■:1位、■:2位、■:3位）[単位:件]

旧ジャスコ跡地の将来的な利用（設問：Q12）

「多目的広場・緑地」でよいとする意見が、いずれの対象でも多い結果となっている。次いで、「駐車場で良い」とする割合が高い。



【都市機能増進施設の考え方（案）】

- 交流・にぎわい・持続的利用がキーワード。
- 多様な機能の組合せ(複合施設)が理想。
- 駅周辺地区及び村上市街地内での同種・類似施設との調整が必須。
- 維持管理を含めたコスト試算も重要

◆村上市の意向【現時点】

市では、病院移転後の跡地利用については、施設の老朽化が進み、建て替えの検討が必要な既存保育園（3園）を統合した「統合保育園」の整備を考えています。

（保育園の現状）

村上地区内にある保育園は、7園（第一、第二、岩船、瀬波、上海府、山辺里、山居町）あります。老朽化が進み、建て替えの検討が必要な既存保育園は、第一、第二、山居町の3園で、いずれも30年以上経過しています。

- ・第一保育園（定員90人）は、昭和56年改築
- ・第二保育園（定員90人）は、昭和57年改築
- ・山居町保育園（定員90人）は、昭和54年開設

統合保育園を160人規模程度と想定した場合、同程度の向ヶ丘保育園（160人規模）の面積は10～13千㎡となります。

◆村上病院移転後の跡地で想定される機能と考え方（案）

機能	考え方	備考
児童福祉	・統合保育園は現時点での市の意向。施設老朽化に伴う対応。 ・病児保育施設の必要性もあり。	○ ※市案
高齢者福祉	・高齢者関連[デイサービス、老人ホーム、在宅介護支援等]等 ・市内の既存施設との調整(需要確認)が必要。	○
文化・交流	・中央図書館や生涯学習推進センター等に既に同様の機能あり。施設間で調整又は連携が必要と思われる。	△
観光交流	・村上駅前観光案内所との機能重複を調整する必要あり。屋外イベント対応は、近接する旧ジャスコ跡地(多目的広場)等での対応が現実的。	△
防災拠点	・有事の際に、近接する旧ジャスコ跡地(多目的広場)と一体となった防災拠点化(拠点指定避難所)は可能。地域防災計画での調整等が必要。	○
商業	・民業を圧迫しない対応が必要。商店街等との調整など。 ・大型小売店舗等は敷地規模的に不適。	△
公園・広場	・公園・広場としての整備は、近接する旧ジャスコ跡地(多目的広場:緑地・公園・駐車場、広場等)で担う方法が現実的。	△
駐車場	・一定量の駐車スペースは必要であるが、近接する旧ジャスコ跡地(多目的広場)との関係も含め、必要台数は十分検討すべき。	△
市役所	・現時点で市役所本庁舎の新築、改築、移転の計画はない。現建物の再利用を仮定する場合、病院という特殊性から十二分な検討が必要。	×

【備考】○：可能性あり、△：可能性あるが課題も多い、×：現時点で可能性はない